

第Ⅱ部 調査結果の概要

第1章 暮らし全般について

1 生活総合満足度 (P19)

現在の生活全般についてどの程度満足しているか尋ねたところ、「たいへん満足している」(7.7%)と「どちらかといえば満足している」(51.8%)を合わせた《満足している》は59.5%となった。一方、「たいへん不満である」(2.7%)と「どちらかといえば不満である」(13.4%)を合わせた《不満である》は16.1%で、《満足している》が《不満である》を43.4ポイント大きく上回った。また、「どちらともいえない」は20.5%であった。

過去の調査と比較すると、《満足している》では、平成29年度は平成28年度と比べて1.6ポイント減(57.5%→55.9%)であったが、平成30年度は平成29年度と比べて3.6ポイント増(55.9%→59.5%)となった。一方、《不満である》では、平成29年度は平成28年度と比べて0.7ポイント増(18.4%→19.1%)であったが、平成30年度は平成29年度と比べて3.0ポイント減(19.1%→16.1%)となった。

2 暮らし向きの変化 (P22)

昨年と比較した現在の暮らし向きの変化について尋ねたところ、「よくなった」(4.2%)と「少しよくなった」(10.5%)を合わせた《よくなった》は14.7%であった。一方、「悪くなった」(5.5%)と「少し悪くなった」(21.4%)を合わせた《悪くなった》は26.9%で、《悪くなった》が《よくなった》を12.2ポイント上回った。また、「変わらない」は56.0%となった。

暮らし向きの変化を過去の調査と比較すると、《よくなった》は、大きな変化はみられなかった。一方、《悪くなった》は、平成29年度は平成28年度と比べて0.8ポイント増(29.2%→30.0%)であったが、平成30年度は平成29年度と比べて3.1ポイント減(30.0%→26.9%)となった。

暮らし向きが《悪くなった》と回答した358人に、その理由を複数回答で尋ねたところ、「賃金などの収入が減ったため」が46.6%で最も多く、次いで「日常の生活費が増えたため」が42.5%であった。

暮らし向きが《悪くなった》理由を過去の調査と比較すると、「教育費が増えたため」は、平成29年度と比べて8.9ポイント減(24.3%→15.4%)となり、最も減少した項目であった。一方、「特別の事情による(結婚、出産、病気など)」は、平成29年度と比べて4.3ポイント増(16.4%→20.7%)となり、最も増加した項目であった。

3 今後の暮らし向きの見通し (P29)

今後の暮らし向きの見通しを尋ねたところ、「明るい」(5.0%)と「やや明るい」(11.4%)を合わせた《明るい》は16.4%であった。一方、「暗い」(8.4%)と「やや暗い」(25.7%)を合わせた《暗い》は34.1%となり、《暗い》が《明るい》を17.7ポイント上回った。また、「変わらない」は37.7%であった。

過去の調査と比較すると、《明るい》《暗い》ともに大きな変化はみられなかった。

4 地域の住みよさ (P32)

現在住んでいる地域の住みよさについて尋ねたところ、「たいへん住みよい」(17.7%)と「どちらかといえば住みよい」(55.8%)を合わせた《住みよい》は73.5%となった。一方、「たいへん住みにくい」(1.1%)と「どちらかといえば住みにくい」(8.0%)を合わせた《住みにくい》は9.0%で、《住みよい》が《住みにくい》を64.5ポイント大きく上回った。

過去の調査と比較すると、《住みよい》は、平成30年度は平成29年度と比べて6.3ポイント増(67.2%→73.5%)となった。一方、《住みにくい》は、大きな変化はみられなかった。

5 定住意向 (P35)

今後も現在のところに住み続けたいか尋ねたところ、「現在のところに住み続けたい」が65.3%で最も多く、「神奈川県外へ移りたい」は5.0%で最も少なかった。

過去の調査と比較すると、「現在のところに住み続けたい」は、平成30年度は平成29年度と比べて5.0ポイント増(60.3%→65.3%)となった。また、「神奈川県内の他のところへ移りたい」「神奈川県外へ移りたい」は、それぞれ大きな変化はみられなかった。

第2章 生活意識 (P38)

県民の様々な生活意識を把握するために、44項目を提示して「そう思う」と「そう思わない」で尋ねた。

「そう思う」では、「環境のことを考えて、ゴミの分別やリサイクルなどを心がけている」が93.2%で最も多く、次いで「介護は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ」が91.9%で多かった。

以下、「育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ」(89.5%)、「神奈川県は、歴史や文化、自然など、地域ごとに特色があり魅力的な県だ」(84.4%)、「食べ物を無駄にしないよう食べ残しや買いすぎなどに気をつけている」(84.1%)が続いた。

「そう思わない」では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」が81.4%で最も多かった。

「そう思う」の上位10項目について過去の調査と比較すると、平成26年度～平成29年度の調査と同様に、「環境のことを考えて、ゴミの分別やリサイクルなどを心がけている」が第1位、「介護は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ」が第2位、「育児は社会的にも重要であり、もっと評価されるべきだ」が第3位となった。

「そう思わない」の上位10項目について過去の調査と比較すると、前回第3位であった「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」が第1位となり、前回第1位であった「今後10年くらいの中に、地域の大人が、青少年の健やかな成長に責任を持つようになっている」が第3位となった。

第3章 くらしの満足度

1 生活重要度 (P73)

身近な生活に関する48項目について、どの程度重要だと感じているかを尋ねた。

「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせた《重要である》と「さほど重要でない」と「まったく重要ではない」を合わせた《重要でない》を比較すると、すべての項目で《重要である》が《重要でない》を上回った。

《重要である》をみると、「犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせること」(95.8%)、「病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること」(95.4%)、「水源地の森林が守られ、良質な水が安定して供給されていること」(92.9%)、「大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害がないこと」(92.7%)、「看護師や介護職員などの人材が確保され、安心して保健・医療・福祉サービスが受けられること」(92.0%)、がそれぞれ9割台で多かった。

《重要である》の上位10項目について過去の調査と比較すると、平成26年度～平成29年度の調査と同様に、「犯罪や交通事故がなく安全で安心して暮らせること」と「病気やけがの時に、いつでも適切な診断や治療が受けられること」の2項目が上位となった。

2 生活満足度 (P80)

「生活重要度」で尋ねた項目と同じ48項目について、どの程度満たされていると感じているかを尋ねた。

「十分満たされている」と「かなり満たされている」を合わせた《満たされている》は、「下水道が整備されていること」が68.0%で最も多く、「通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと」(49.5%)と「身近に親しめる緑や水辺があること」(47.6%)が続いた。

「あまり満たされていない」と「ほとんど満たされていない」を合わせた《満たされていない》は、「地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること」が40.5%で最も多く、「自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること」(33.5%)と「道路の渋滞がないなど、自動車で県内各地へスムーズに移動できること」(33.1%)が3割台が続いた。

《満たされている》の上位10項目について過去の調査と比較すると、平成26年度～平成29年度の調査と同様に、「下水道が整備されていること」が第1位、「通勤・通学、買物など日常生活のための交通の便がよいこと」が第2位、「身近に親しめる緑や水辺があること」が第3位となった。

《満たされていない》の上位10項目について過去の調査と比較すると、平成26年度～平成29年度の調査と同様に、「地域の人々の交流の場となるような、にぎわいのある商店街が身近にあること」が第1位となった。第2位は前回調査と同様に、「自由な時間や休日が多く、ゆとりある生活ができること」となった。「道路の渋滞がないなど、自動車で県内各地へスムーズに移動できること」は前回調査の第5位から第3位となった。

第4章 県行政への要望 (P91)

神奈川県を行政を進めていく上で、力を入れて取り組んでほしい分野について30項目を挙げて複数回答（5つまで）で尋ねたところ、上位5項目は、第1位「防災対策」（50.5%）、第2位「治安対策」（46.7%）、第3位「高齢者の福祉対策」（38.4%）、第4位「医療体制の整備」（37.0%）、第5位「子育て支援」（31.8%）となった。

過去の調査と比較すると、平成26年度～平成29年度の調査で第2位であった「防災対策」が第1位となり、平成26年度～平成29年度の調査で第1位であった「治安対策」が第2位となった。上位5項目は、平成26年度以降同じ項目となっている。